

第4回菊池市総合計画策定審議会 議事録

I 概要

日 時 令和7年9月17日（水） 13：30～15：00

場 所 菊池市生涯学習センターKiCROSS 2階大研修室

出席者 上野（眞）委員、古津委員、野口委員、松野委員、泉委員、
田嶋委員、上野（智）委員、谷委員、釧委員、下川委員、錦戸委員、
堀田委員、岩根委員、佐藤委員、赤星委員

欠席 永田委員、立花委員、岩下委員、出口（美）委員、出口（一）委員
北村委員

菊池市政策企画部 宇野木部長、稲葉室長、中山課長補佐、福原参事
地方経済総合研究所 津口、石川、大久保（文責）

※以下敬称略

II 会次第

1 開会

2 会長挨拶

3 議事（1）第3次菊池市総合計画後期基本計画素案について

4 閉会

Ⅲ 議事詳細

発言者	内容
	1 開会
	2 会長挨拶
会長	本日は、15 時までの会議を予定している。本日は傍聴希望者がいないため、このまま議事に入る。本日の議題は、第3次総合計画後期基本計画の素案についてとなる。分野ごとにご意見をいただきたい。出席者が多くいるため、発言は簡潔にお願いしたい。
会長	議事1について事務局から説明をお願いする。
	3 議事（1）第3次菊池市総合計画後期基本計画素案について
事務局	はじめに1点資料の修正がある。目次の「第1節 市の将来像」の上に『第3章 基本構想』と追記修正をお願いする。 第1章～第3章までは、主な変更点のみを説明し、その後、質疑の時間とする。 変更点は、第2章に人口ビジョンを追加した点である。第1節で国勢調査や本市の統計資料を基に人口の現状分析を行った。第2節では、国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計を記載した。こちらの推計によると、2070年に本市の人口は25,000人になると見込まれている。 次に、本市独自の将来人口推計のグラフを作成した。3パターンのシミュレーションを行い、本市が目指すべき将来の方向性として、2070年の目標人口を31,000人確保するとした。 事前に委員より2点質問があった。1点目は、計画内にICTやカーボン・ニュートラル等のカタカナ言葉が出てくるが、注釈をつけたほうが良いのではないかとのご意見をいただいた。 総合計画全体として、カタカナ言葉や専門用語には注釈をつける予定としている。また、難しい言葉は使わないように、言い換えできるものについては対応したい。 2点目は、今回新たに中学生アンケートを実施した意図があれば教えてほしい。また、本文中に調査の趣旨やねらい等を記載することで、アンケート結果を読み解く参考になるのではないかとのご意見をいただいた。 これについては、今回計画を策定する中で、10年後の未来を担う子どもたちの意見や視点を重視したいというねらいがあった。また、「世代別の転入転出状況」にも表れているが、15歳から24歳までの

	若年層において、進学や就職等による転出超過が目立つことや、本市の中学生が地元高校に進学する割合も減っていることなどから、今後の政策の参考にするため中学生を対象とした。趣旨やねらい等を本文中に記載するよう修正したい。 以上が事前質問に対する回答となる。
会長	合計特殊出生率をあげて目標達成を目指したいということは理解できた。しかし、達成できない可能性の方が高いのではないか。目標達成に向けて、出生や移住についての新しい施策が必要ではないか。これから考えていく必要がある。 また、中高生アンケートの結果が円グラフで掲載されているが、棒グラフの方が読みやすいのではないか。 もう１点は計画内に「だれひとり取り残さない」とあるが、菊池市は、どのような人がその対象と考えているのかを知りたい。
事務局	人口減少が最大の課題であると考える。また、人口減少に付随する事象がこれからの課題になってくると思う。例えば、中山間地域の移動手段や高齢者の買い物など。既に対策もしているが、人手不足等でできていない部分もあるため、ひとつずつクリアできるように庁内で協議を進めたい。
会長	回答いただいた内容は市民の満足度、重要度にもつながると考えている。ぜひ協議を進めていただきたい。
委員	中高生アンケートの結果が掲載してあるが、「住みたくない」「分からない」を合わせると約６割もある。これは、菊池市独自のアンケートなのか。他の市町村の結果もあるのか。また、約６割ということであれば、その結果を政策に反映されているのか。
事務局	まず、本アンケートは市独自のアンケート調査である。市内在学の中学３年生と菊池市内の高校に通う３年生が対象。高校生の居住地は必ずしも菊池市とは限らない。自由コメント等でこども達から貴重な意見をいただいております、その内容は各課に共有している。
委員	中学生の意見は興味深い。こどもの意見と親の意見がそれぞれあると思う。高校受験を機に菊池市外へ引っ越す人もいて、出て行かれた方は、なかなか戻らない。その原因が何かを検証する必要がある。やはり交通の便が悪いことや教育的な部分の話、成績の話なのか。親が菊池市で子育てをしたいと思っているのかも知りたい。
委員	中・高生アンケート「本市での居留意向について」について。若年層の意見は重要だと思うが、結果のグラフが非常に見づらい。一目見てわかるように工夫できたら良いと思う。また、保護者の意見も本文

	中に記載できたら良い。
会長	転入者を増やしたいと言っている一方で、進学等で転出する人が多くいるのであれば、具体的な数値を知りたい。卒業生の何％が転出しているのか。菊池高校の受験者も減っているという事実や、市外の高校に通う方がどのくらいいるのかなど。事実が見えると対策が考えられる。事務局にコメントをいただきたい。
事務局	市内には3高校あるが、菊池高校について言えば市内在住の生徒は4割を切っていると聞いている。アンケート結果を見ても半分以上は市外の生徒である。TSMC 関係の対応でもあるが、市では移住施策を促進してきた。こどもがいる世帯の転入や家を新築した人に補助金を交付している。今年からは、移住者だけではなく、定住者についても補助金を交付している。 進学等に伴う転出については、1自治体だけで取り組むには難しい課題で、公立高校の無償化や校区の問題もある。県でも、県立高校あり方検討会で議論されている。自治体として、高校の課題に踏み入れる範囲は限られるが、市内の中学生には地元高校の魅力をPRしていきたい。
会長	私立高校無償化の話もあるが、県立高校を地域に維持できなくなる現象を引きおこしてしまう。結局、市外の高校を選ぶという状況がますます強まる。それぞれの地域らしい、地域で育てていく、という考えが必要ではないか。
委員	アンケートで菊池市外の高校生も含まれるとのことだが、菊池市内に住んでいる高校生を対象にする必要があったのではないか。
事務局	今回、市内3高校を対象としたが、そのうち市内在住の生徒に絞ることは難しいと判断した。また、高校にとっても地元での就職率を上げるという方針で、市外の生徒でも今後菊池市に住む可能性もあることから、市内の高校に通う3年生すべての生徒を対象とした。また、市外の生徒から見た菊池市も知りたいというねらいもあった。
委員	人口が減ることばかりを気にしているが、人口減少に伴ってその分必要となる経費も減ると考える。過疎化の問題もあるが、豊かな自然を残すことにもつながる。 また、市外から通学している高校生が、菊池市に魅力を感じて、住みたいと思うかもしれない。大学などで外に出てみて初めて菊池の良さに気付いて戻ってくる人もいる。人口というものは推移するものだと思う。あまり減ることばかり問題にしなくてもよいのではないか。 もう一点、今は小さいころから、特別支援学級などで区別されるが、小さい子どもの成長には個人差がある。みんなで助け合いなが

	ら、学校生活を送ることで思いやりも出てくると思う。
委員	他の委員からも出たが、アンケート結果の円グラフが見づらい。もう一点、人口の転入超過が続いている原因をどう分析されているか。
事務局	グラフについては、今回資料を白黒で配布したため見づらくなっている。見せ方については検討したい。転入超過については、外国人の研修生の増加によるものと考える。現在、移住定住施策や開発等を進めているため、しばらく人口の増加傾向は続くと思われる。
	分野別施策について（産業と経済）
会長	これは感想だが、一番最初が関係人口の拡大という施策で、取組内容に菊池ファンの創出拡大というのはインパクトが弱い。
委員	菊池温泉街のリブランディングについて。リブランディングはどれくらい進んでいるのか。時期は決まっているのか。
事務局	観光振興課で進めており、10年間の構想である。
委員	前回も言ったが、温泉街入口の看板を改装したい。10年間で実施することは理解したが、10年も経ったら看板も相当古くなる。最近、店も働く人も減っている。できることから早めにやらないと廃れる一方ではないか。
委員	菊池ファンとは何か。定義を知りたい。
事務局	菊池ファンとは、菊池ファンクラブのアプリ登録者である。観光協会で進めている事業のひとつ。市内外問わず、菊池のことが好きな方が登録しており、登録者は6,000人ほどいるが頭打ちと聞いている。菊池川流域や菊池一族を活用し、関係人口の拡大につなげるなど、その方々に菊池をお勧めいただけるような施策を考えていきたい。
会長	ファンが増えたからどうなるのかという疑問はある。もうひとひねり欲しい。これを成果指標にするのか、施策にするのかも含めて再検討してほしい。
委員	成果指標について。新規就農者数とあり、基準値より目標値が低い点が気になる。数値の事実関係の確認をお願いしたい。過去の平均値を示すなど基準値の表記に工夫をしてはどうか。
事務局	担当課によると、基準値の年だけ高い数字が出たことにより、目標値が低くなっていると聞いている。目標値の見せ方は担当課と話して決めたい。
会長	経年で見せるなど工夫してみてもどうか。
	分野別施策について（子育てと健康福祉）
会長	通いの場という言葉が分かりづらい。就労支援は%で表示してあるが、件数もあるとボリューム感が伝わる。

委員	成果指標に施設入所者数があるが、目標値を掲げるべき項目なのか。成果指標は無理やりあげるべきではない。
会長	自立した生活が出来るように支援するということだと思うが、誤解されない書き方にした方が良い。
事務局	担当課も思慮されていたが、再度検討いただく。
委員	生活困窮者への支援について、お金の支援だけではなく、就労を支援して自分で働き、困窮を脱してもらうことも必要。働くことでいきがいにもつながる。自立できるように支援してほしい。
会長	それらの内容が含まれた施策になっていると思う。
	分野別施策について（自然環境と暮らしの基盤）
会長	2点気になるところがある。施策14の成果指標が補助金の件数になっている。これでは単なるアウトプットで終わるため、アウトカム指標を設定した方が良い。例えば、地下水質問題の箇所が減った件数など具体的なものが良い。 施策17 成果指標について、高齢者が騙される事件も起きている。防犯活動については、啓発や連携の数などに触れていただきたい。
委員	施策17 成果指標「市内刑法犯罪認知件数」について。犯罪とは、具体的にどのような犯罪が起きているのかが分かれば対策できる。犯罪の中身が分かれば防犯の意識づけにつながると良い。
委員	よく市民広場に行くが、暴走族がいる。市外の人が見た時に菊池の印象が悪。可能であれば、警察に協力いただき、見回りをして欲しい。
委員	施策19に道路交通について書いてある。これは、市民向けの話だと思うが、例えば観光客向けに大津駅ルートに関する項目を検討してもらうなど、観光の便利さについて触れてもいいのではないかな。
会長	どこに記載するかも含めて検討してほしい。
	分野別施策について（教育と文化）
委員	男女共同参画社会というが、男性と女性ではそれぞれ特徴がある。同じ感覚が大事だと言われているが、家事育児には女性のほうが向いていると思う。
会長	個人的な意見ではなく、素案に記載してある内容について発言いただきたい。
	分野別施策について（市政運営）
会長	デジタルが便利な人もいれば、そうでない人もいる。必要なものが的確に届くような配慮をお願いしたい。 施策全体を通して、他にご意見等はないか。

委員	素案を作成するのは、大変な作業だったと思う。菊池市民全体に読まれるという意識を持ってほしい。どうしても、例えば観光であれば、菊池溪谷や菊池温泉となりがちだが、泗水や七城、旭志にもそれぞれの良い所があるということを表現してほしい。計画を読んだ市民の方々がまちづくりに積極的に関わりたいと思えるようなものを期待している。
委員	施策 29 の現状と課題が気になった。職員の事務処理ミスに関する文言は、読む人によっては印象が良くない。別の書き方はできないか。
委員	同意見である。この部分の課題は、市職員の人材確保が重要になってくるとのこと。働き方改革の必要性や優秀な職員の確保によって市民サービスの向上につなげるというようなニュアンスに変えてはどうか。
会長	行政改革により、正規職員は 5 割を切る状況になった。その結果、人手が足りない自治体が増えた。いつまでも人を減らし続ける時期ではない。市の施策の質を高めるためにも記載してほしい。最後に全体についてご意見はないか。
委員	全体的に横文字が多い。日本語にできるのならその方が良い。これは、市民に配布するのか。
事務局	市民に配布はしないが、ホームページで公表する。
会長	大切な視点だと思う。他に意見が無いため、これで審議会を終了する。最後に事務局から連絡事項はないか。
事務局	次回の審議会は 11 月 13 もしくは 14 日で開催したい。場所は、市役所 3 階の大会議室。次回も引き続き、計画素案の内容を審議する。日程が確定したらお知らせする。
会長	これをもって閉会とする。